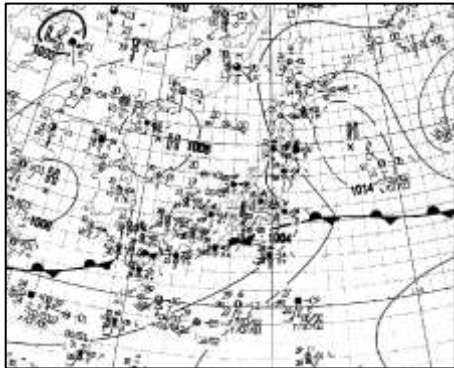


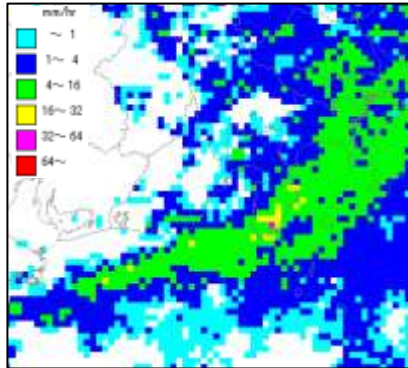
1993年 7月5日 南岸低気圧

1. 気象経過

5日9時には、停滞前線が東シナ海から九州、室戸岬沖、潮岬沖を通して日本の東海上へと伸びていた。また、前線上に低気圧が発生し、石廊崎沖を東進していた。低気圧近傍の前線付近では、積乱雲が線状に分布した積乱雲が所々で発達しており、遠州灘から伊豆をとおり房総半島方面へと連なっていた。この線状の強雨帯がかかり続けた御前崎周辺から伊豆南にかけて、5日朝から昼前にかけて非常に激しい雨となり、日雨量が200mmを超える大雨となった。



1993年7月5日9時
地上天気図



1993年7月5日8時46分
気象レーダー

2. 大雨の原因、特徴

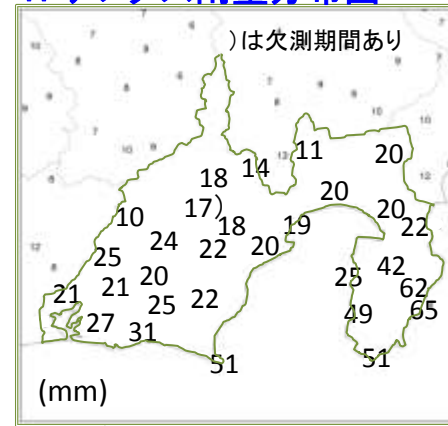
南岸低気圧が海上から暖かく湿った風を送ったことが、大雨の一番の要因ではあるが、停滞前線が、低気圧の進行方向と同じ西南西-東北東に伸びていたことで、さらに顕著な現象となった。停滞前線に限らず、温暖前線や寒冷前線などにより、遠州灘南岸から伊豆にかけて線状に分布する強雨帯が発生することは珍しくない。概ね海上が中心となるが、今回の様に陸上にもかかるかどうかは、直前の気象条件によるため、注意、警戒が必要である。南岸低気圧としては、典型的な大雨事例の一つである。

3. 被害概要

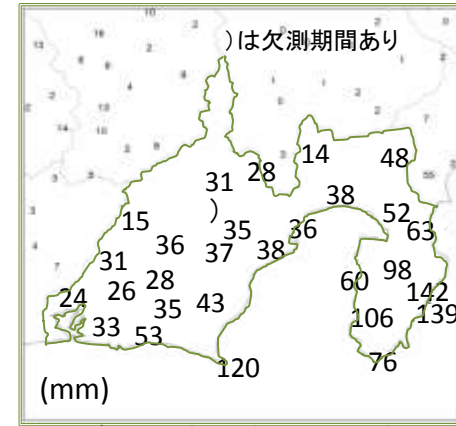
	床上 浸水 (棟)	床下 浸水 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	一部 損壊 (棟)	死者 行方 不明 者 (人)	重傷 者 (人)	軽傷 者 (人)	家畜 れ (頭)	通船 力 (船)	橋よ う (力)	河川 力 (力)	幹筋 力 (力)	鉄道 不通 力 (力)
全県	21	170	0	1	2	0	0	0	37	116	2	209	7	0
中部	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
西部	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
東部	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
伊豆	21	170	0	1	2	0	0	0	-	-	-	-	-	-

被害数は、静岡県 平成5年における災害の状況等による

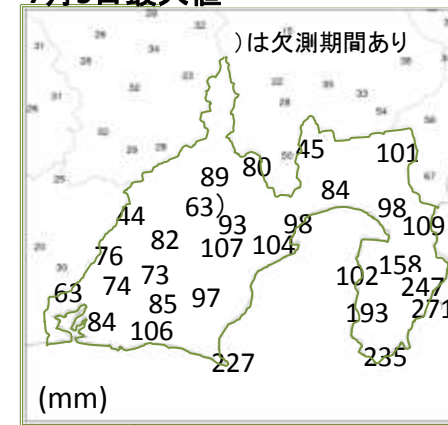
4. アメダス雨量分布図



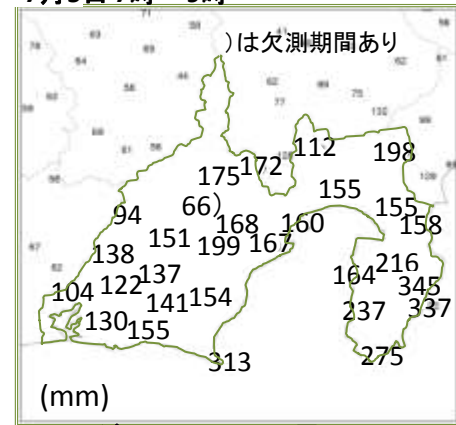
アメダス1時間降水量(正時毎)
7月5日最大値



アメダス 3時間降水量正時毎
7月5日7時~9時

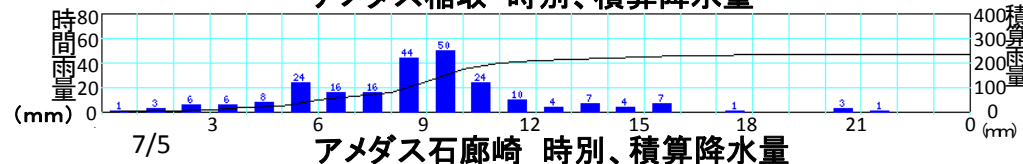
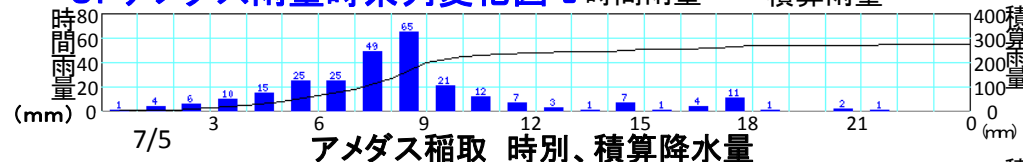


アメダス 日雨量
7月5日



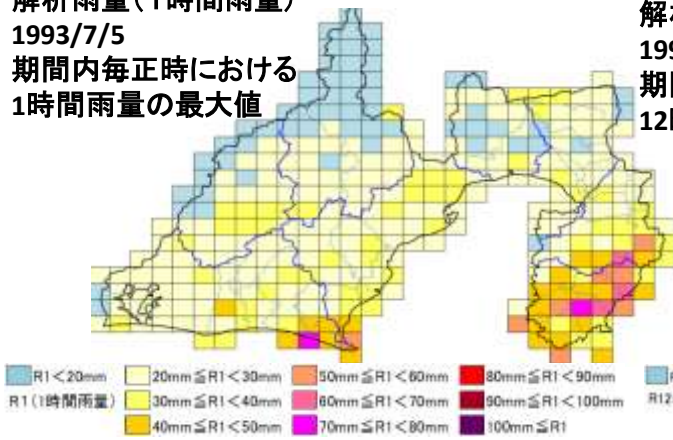
アメダス 3日間雨量
7月3日~5日

5. アメダス雨量時系列変化図

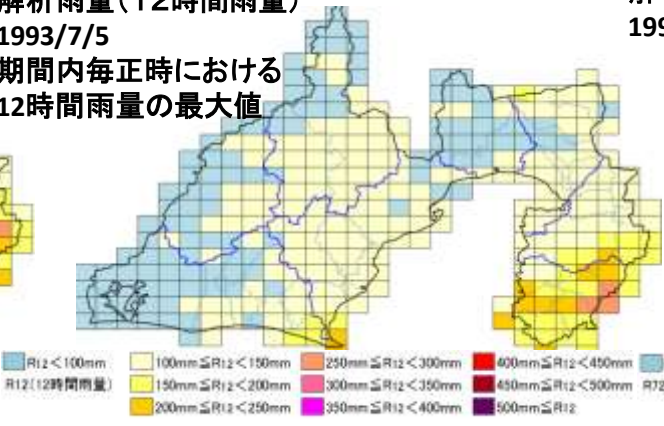


6. 解析雨量分布図

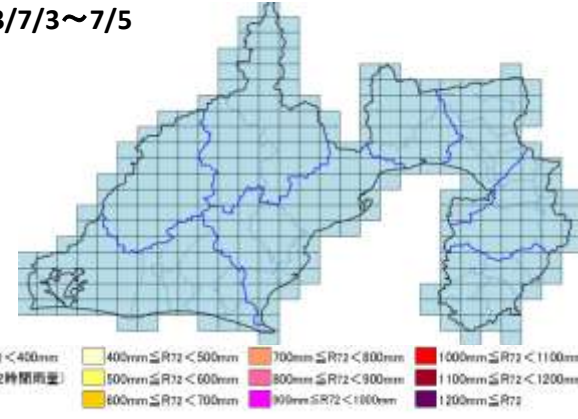
解析雨量(1時間雨量)
1993/7/5
期間内毎正時における
1時間雨量の最大値



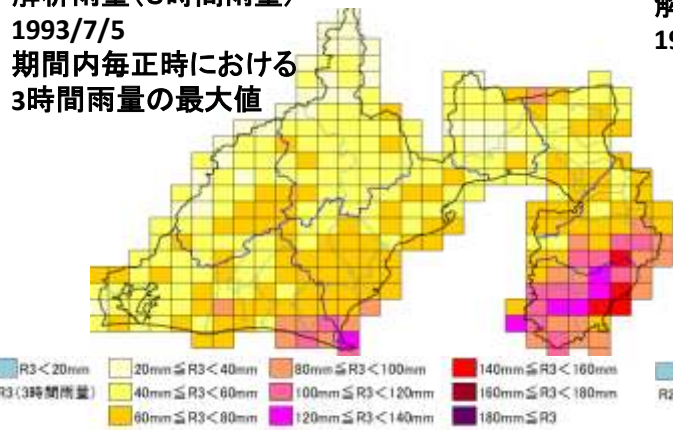
解析雨量(12時間雨量)
1993/7/5
期間内毎正時における
12時間雨量の最大値



解析雨量(3日間雨量)
1993/7/3~7/5



解析雨量(3時間雨量)
1993/7/5
期間内毎正時における
3時間雨量の最大値



解析雨量(日雨量)
1993/7/5

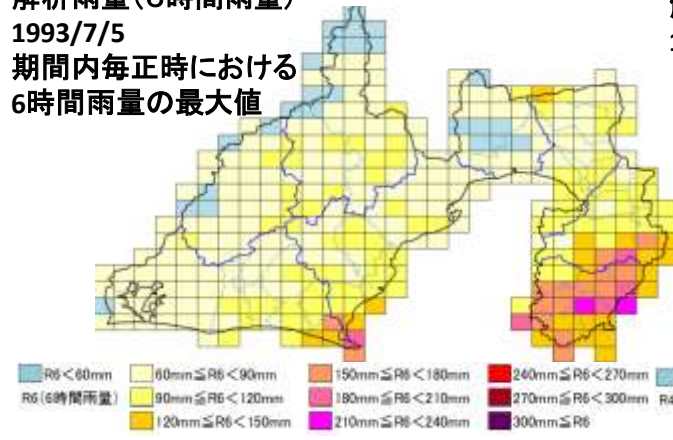


7. 床上、床下浸水被害分布図 (市町毎)

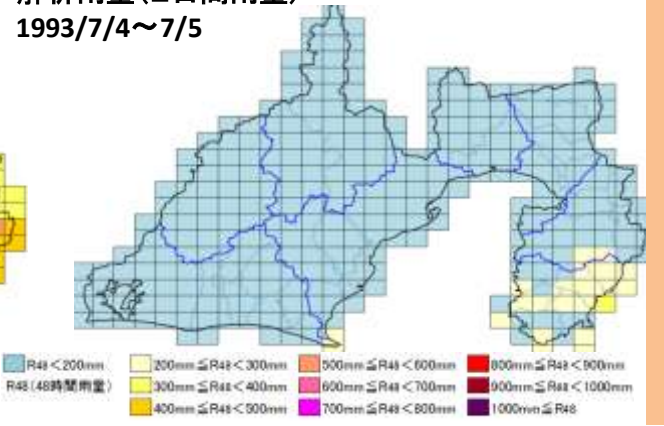


被害数は、静岡県 平成5年における災害の状況等による

解析雨量(6時間雨量)
1993/7/5
期間内毎正時における
6時間雨量の最大値



解析雨量(2日間雨量)
1993/7/4~7/5



解析雨量と浸水害分布図からわかる大雨の特徴

強雨の中心は、御前崎周辺から伊豆南であった。これら地域では、1時間雨量だけでなく、3時間、6時間雨量も多くなっており、強雨が暫く続いたことが分かる。大雨の割に浸水害が少なかったのは、山地を中心に降ったことが挙げられる。このようなパターンでは、御前崎周辺で発生する積乱雲が細い線状分布となって伊豆に向かうが、時々刻々と変化する風向によりシャワーをかけるように線が南北に移動するため、断続的な雨となる場合も多い。このような場合には大きな被害とならないこともある。